

若宮

若宮は、鶴岡八幡宮で本殿に次ぐ重要な社です。若宮という言葉は、本宮の主神の子である御子神を祀った神社や主祭神に特別なかわりのある神社を表すもので、ここに祀られた4人の祭神は、武士階級や国家の守護神であり本殿に祀られている八幡神、つまり応神天皇と親族関係があります。いずれも古代日本で神格化されている人物である、応神天皇の皇后仲姫命、その皇子仁徳天皇、仁徳天皇の皇后磐之媛命、そしてその嫡男履中天皇が、その4人の祭神です。この上下の二組の神社の並びは1191年からのもので、1191年以前は、現在の大石段の下付近に一つ神社があるのみでした。

現在の建物は1624年に完成したもので、国の重要文化財に指定されています。本殿と同様、権現造の一つ屋根の下に本殿、幣殿、拝殿が収まっています。建物は獅子とボタンの彫刻で装飾されています。これは中国の神話で獅子は獣の王とされ、ボタンは花の女王とされており、その縁起にあやかっただけです。